さようなら原発

原発問題・かんたん解説ニュース　その２

■2011 年 11 月 7 日発行　「さようなら原発 1000 万人アクション」実行委員会
■101-0062　東京都千代田区神田駿河台 3-2-11　総評会館１Ｆ　原水禁気付
■TEL:03-5289-8224■FAX:03-5289-8223■E-Mail: sayonara.nukes@gmail.com■http://sayonara-nukes.org/

原発なくても電気は大丈夫

「足りない」にだまされるな！

自然エネルギーは頼りないか？

弱点こそが自然エネルギーの強み

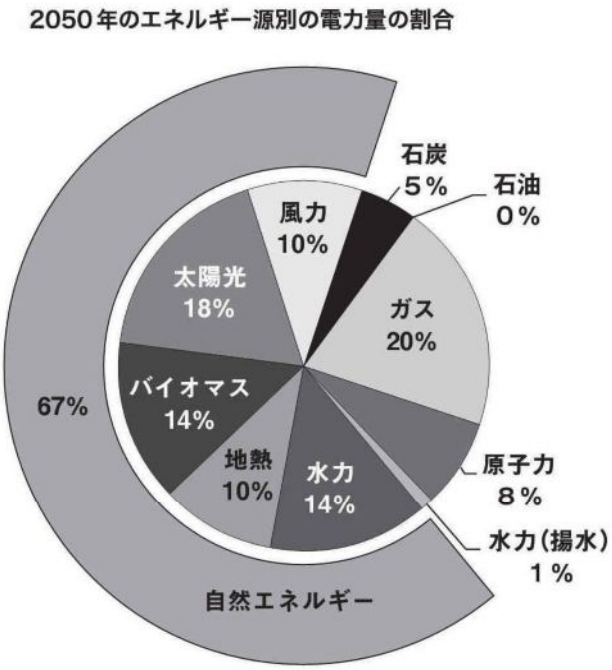
「日本は資源が少ないから原子力」などと言われます。しかし、実は地形的に見て自然エネルギーに恵まれています。例えば、木質バイオマスなどは、林業再生の取り組みと同時に、大きな可能性を持つ分野でしょう。自然エネルギーの推進は、雇用の創出にもつながります。「おひさま頼み、風まかせ」などと揶揄されて、自然エネルギーは当てにならないという声もあります。しかし、それは太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、様々に組み合わせることでクリアできます。しかも、その弱点と思われる点こそが実は、エネルギーの「低消費化」、すなわち省エネルギーにつながる、自然エネルギーの優れた点だと言えるのです。

原発がなければ電気は足りない？

そう言っても、今はまだ原発がなければ困るではないか、という声があります。首都圏では福島原発事故直後の、計画停電も記憶に新しいところです。しかし、このときは地震によって原発だけではなく、火力発電や水力発電の施設も同時に壊れたことによる電力不足であって、原発が停止して電力が不足したわけではありませんでした。

2007 年７月の新潟県･中越沖地震の際は、柏崎刈羽原発７基すべてが２年間にわたって停止していましたが、停電は起こりませんでした。この年の夏は記録的な猛暑だったにもかかわらずです。大電力消費地である首都圏（東京電力管内）では、夏のピーク時にはある程度の節電が求められます。どんなときでも、節電は大事ですが、実際のところ、全国的に見ても本来、原発を優先的に動かすために止められていた火力や

一般水力を動かすことで、電力の供給に支障はないのです。



（出所：原水禁エネルギー・プロジェクトからの提言）
2008年に設立された「自然エネルギー政策プラットフォーム」によって発表された「2050年自然エネルギービジョン」。2050年までにという長期計画だが、福島第一原発事故を経た今、一日も早い実現が望まれる。一つひとつの割合は小さくても、組み合わせることでまかなえる。

省エネ～自然エネルギー中心の社会へ

原発は電力需要に合わせた調整が効かないので、需要がないときでも 100％稼働させておくしかありません。一方で、事故やトラブルで停止となればその供給量はゼロです。「Ｃｏ２を出さないクリーンなエネルギー」など言われる原発も、その代替として火力を動かせば結局、Ｃｏ２を出さないというわけにはいかなくなるでしょう。

現時点でも、原発が無くてもやっていけることをまず抑えた上で、省エネルギーを推進し、再生可能な自然エネルギーの利用にシフトしていけば、原発に頼らず、Ｃｏ２を出す火力などに頼らなくても、十分にやっていける社会をつくることは可能なのです。

やっぱり「さようなら原発」

官民一体の「平和利用」推進

多くの危険をはらむ原発が、いつの間に日本で定着することになったのでしょうか。

日本の原子力行政は 1950 年代にその端緒を開きます。広島・長崎への原爆投下、そして第五福竜丸のビキニでの被爆(54年)を経験しながら、一方で「未来を切り開くための科学技術」として「原子力の平和利用」が推し進められました。この動きは「平和利用」を掲げながらも、実際は国際的な核軍拡競争の中で軍事転用を多分に意識したものであるとも考えられるでしょう。

こうした中で政府・電力会社が一体となって原子力開発に血道を上げていくことになります。その原動力は、総括原価方式と電源三法交付金に端的に表現されています。

カネまみれの原発

電力会社は発電・送電・電力販売にかかるコストに一定額を上乗せしたものを基準に電気料金を設定できるのです。すべてコストを回収できるからこそ、原発などというどうしたって建設費がかさむものをどんどん計画できるのです。

また、原発を受け入れた地方自治体に対しては、地域振興を名目に交付金をじゃぶじゃぶとつぎ込まれます。地方自治体にとって、都市部への人口流出が進み地域経済が疲弊していく中で、手っ取り早いカンフル剤としてたまらなく魅力的に映りました。

切り裂かれた地域の絆

政府・企業一体となった札束攻勢で原発計画が持ち上がった地域では、例外なく反対する住民への懐柔が行われ、その結果地域の人間関係はズタズタにされました。農業・漁業など地域を基盤とする産業は軒並み空洞化し、残ったものは巨大な「ハコモノ」ばかりです。

私たちはこの数十年間に及ぶ原子力推進の陰で、苦しみと悲しみの中で多くの人々の生活が押し潰されてきたことに対して想いを致す必要があります。

海外にも被害をまきちらす

そもそも原発の燃料であるウラン鉱石は日本ではほとんど産出しないので、海外からの輸入に頼っています。主な産地はオーストラリア、カナダなどですが、採鉱地はいずれも先住民族の居住地域に存在しています。危険な鉱山労働の多くを先住民族たちが担うことになっただけではなく、採鉱の過程で周辺環境を放射能で汚染され、その被害は先住民族に集中しています。

労働者の被曝は避けられない

必ずおさえなくてはならないことは、巨大な構造物、さまざまな計器類、複雑な配管をもつ原発の運転のためには、そのメンテナンスのために被曝を前提とした労働が必須になるということです。いくら防御措置をとろうとも、強力な放射線発生源の直近では、本質的な安全対策は存在しません。今回の事故でもみられたように、人海戦術で一人あたりの被曝時間を少なくするしかないのです。

危険なゴミは未来と海外へ押し付けるの？

原発を運転する過程で産み出される核のゴミ＝放射性廃棄物は自然のものとは比べ物にならないほどの放射能を帯びています。半減期を繰り返して安全化するまで数千・数万年の時間を必要としますが、そんな期間地上で安全に保管することは不可能なので、数百メートルもの穴を掘って埋めるという「地層処分」が検討されています。しかしこれは安全性に疑問があるだけではなく、結局のところ核の危険の解消を未来の世代に先送りする無責任な発想です。さらに日本国内で「地層処分」を引き受ける場所がどこにもないことから、モンゴルなどの海外にこの危険なゴミを「輸出」しようという考えも浮上しています。

私たちの社会のありかたを見直そう

以上のように、原発というものが、いかに誰かにその危険を押し付けるか、そしてそのことによってしか成立しない技術であることは明白です。周辺住民、労働者、海外、そして未来へ。私たちは、これから先も私たちの生活の代償を押し付け続けていくのでしょうか。今まさに、私たちの社会のありかたを私たち自身の手で選び直す岐路に立っていると言えるのではないでしょうか。

さようなら原発 1000 万人署名に参加しよう！

３月 11 日の大地震によって、東京電力の福島第一原子力発電所が破壊され、原子炉は炉心溶融（メルトダウン）を起こし、高濃度の放射性物質が大気・海水・土壌に拡散してしまいました。
福島では多くの人々が被ばくし、関東一円でも農産物から放射能が検出されています。事故を起こした原子炉は、未だに停止させることすらできていません。
しかし電力会社や経済産業省、新聞やテレビなど、原発の利権に群がる人々は、「原発は安全だ」とくり返しています。日本政府は、今後も原子力発電を維持するとしています。
原発で事故が起これば人間には制御が不能です。大きな悪影響を人間や自然に及ぼします。また政府は正確な情報を、私たちには伝えません。
エネルギー政策の転換と既存の原子力発電所の段階的廃止を求めて 1000 万人の署名を集めています。私たちの要求は、３項目です。未来の子どもたちのために、皆さんも署名行動に参加してください。

1 新規原発建設計画の中止、浜岡をはじめとした既存原発の計画的廃止。
2 もっとも危険なプルトニウムを利用する「もんじゅ」、「再処理工場」の廃棄。
3 省エネルギー・自然エネルギーを中心にエネルギー政策の転換を。

●期　間　2011 年 6 月～ 2012 年 3 月
●提出先　衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣
●署名用紙はこちら　http://sayonara-nukes.org/shomei/（郵送もできます）　TEL:03-5289-8224／8222

呼びかけ人

内橋克人　大江健三郎　落合恵子
鎌田 慧　坂本龍一　澤地久枝
瀬戸内寂聴　辻井 喬　鶴見俊輔

「がんばろう！さようなら原発 1000 万人署名」12.10 集会

●日時：2011 年 12 月 10 日（土）13：30～
●会場：東京・日比谷野外音楽堂
●交通：東京メトロ「霞ヶ関駅」（丸の内線・千代田線・日比谷線）徒歩５分
都営地下鉄「内幸町駅」（三田線）徒歩５分
ＪＲ「有楽町駅」（京浜東北線）　徒歩 15 分
●内容　内橋克人さん（呼びかけ人）
鎌田　慧さん（呼びかけ人）
福島からの参加者　　ほか
●パレードコース（予定）
日比谷公園→東京電力本社前→銀座→東京駅→常盤橋公園

全国一斉さようなら原発 1000 万人アクション

日時：2012 年２月 11 日（土・休）13：30～
会場：代々木公園イベント広場、ほか
内容：全国主要都市、原発立地県で一斉アクション

福島現地集会

2012 年３月 11 日（日）
※東京よりバスツアーあり

さようなら原発 1000 万人署名集約集会

日時：2012 年３月 24 日（土）13：30～
会場：日比谷野外音楽堂
内容：集会、デモ・パレード

連絡先